

世界的なリスクオン相場は今後も続くのか？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 上期は世界的な株高が目立った

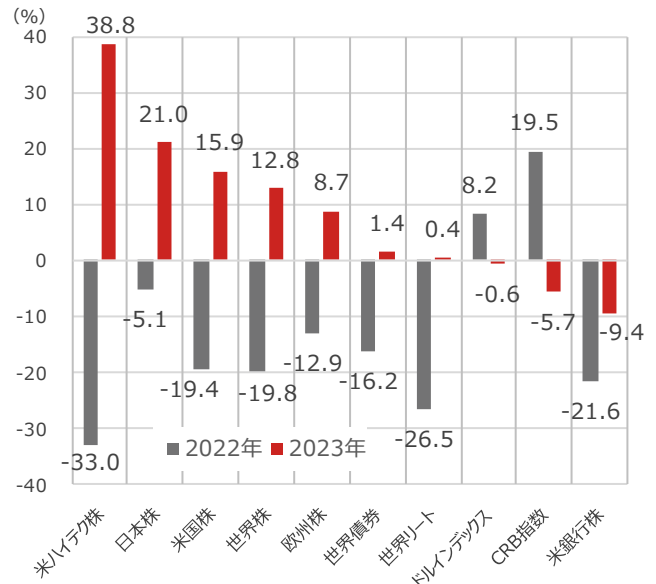
23年の上期相場は、世界的な金融引き締めや金融システムへの懸念がくすぶる中でも株式の上昇が目立つなど、リスクオンの相場展開となりました（右上図）。とりわけ上昇が際立ったのが米ハイテク株です。ハイテク株主体で構成されるNASDAQ100の23年1-6月期の上昇率は38.8%となり、上期としては過去最大の値上がりとなりました。また、企業改革への期待が高まった日本株にも見直し買いが膨らみ、TOPIX（東証株価指数）が約33年ぶりの高値水準を回復するなど、世界株を大きくアウトパフォームしました（同図）。

ポイント② リスクオン相場は継続するのか？

今後もリスクオン相場が継続するかどうかを占う上では、世界的な金融引き締めやインフレ、世界景気の行方が焦点となります。G7（主要7カ国）の政策金利合計値は依然として上昇しており、市場では米欧を中心にもう少し利上げが続くとみられています（右下図）。もっとも、これまでの利上げによる累積効果で、世界のCPIの伸び率は鈍化傾向にあり（同図）、6月末時点のG7の政策金利合計値は3か月前比で2.75%の上昇と、22年11月末時点（同8.5%の上昇）をピークに利上げ幅が大きく縮小してきました。世界的な利上げ停止のタイミングは近づきつつあるといえます。

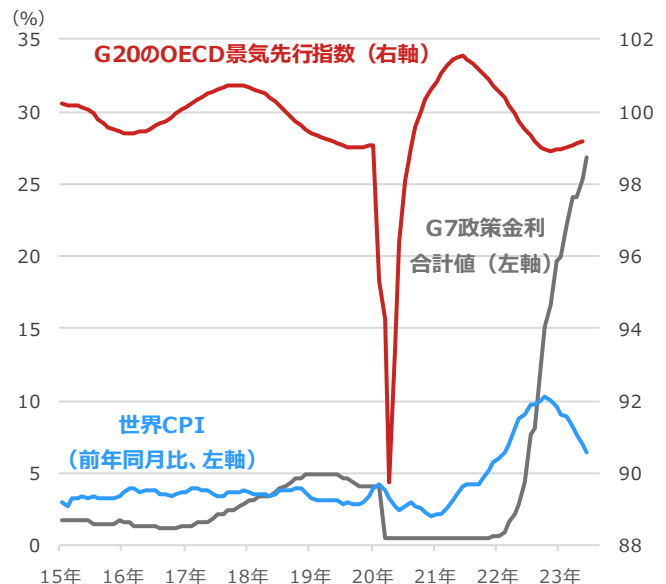
G20のOECD（経済協力開発機構）景気先行指数は6か月連続で上昇しており、世界景気の先行きに明るい兆しがみられます（同図）。こうしたことを受けて、日米欧の主要株価指数の12か月先予想EPS（1株当たり利益）が拡大傾向にあることを考えると、業績改善期待を背景に株式を中心としたリスクオン相場は継続しそうです。

世界主要指数の年間騰落率



期間：2022年～2023年、年次
 ・2023年は6月30日までの騰落率
 ・米ハイテク株はNASDAQ100、日本株はTOPIX（東証株価指数）、米国株はS&P500種株価指数、世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）、欧州株はSTOXX欧州600、世界債券はBloomberg Global Aggregate Index（米ドルベース）、世界リートはS&P Global REIT Index（米ドルベース）、米銀行株はS&P500銀行株指数（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

G20（主要20カ国）のOECD景気先行指数 ・G7政策金利合計値・世界CPI（消費者物価指数）



期間：（G20のOECD景気先行指数）2015年1月～2023年5月、月次（その他）2015年1月末～2023年6月末、月次
 ・世界CPIは世界全体に占める各国のGDP比率で加重平均（Bloomberg算出）
 ・G7政策金利合計値：米国、ユーロ圏（ドイツ、フランス、イタリア）、日本、英国、カナダの政策金利合計値（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。